

北海道教育委員会教育長 様

北海道旭川永嶺高等学校長  
高倉友恵

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

- 1 生徒一人ひとりが活躍し、成長することを追求して、質の高い教育活動を展開する。
- 2 保護者や地域住民に愛され信頼される、生徒が誇りに思える学校づくりを推進する。
- 3 教職員が目標を共有し、役割を果たし、チームでスクール・ミッションを具現化する。

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	授業公開週間やICT等、各種の校内研修を通して、授業改善や観点別評価の充実を図ることができた。今後は、探究的な学びの充実に向け、さらなる授業改善を推進した。	・生徒一人一人の興味や能力に応じた科目選択等についてきめ細やかな指導を実施していく必要がある。
改善方策	・探究的な学びの視点を取り入れた授業づくりについて、校内研修や授業研究を継続的に実施する。	
生徒指導関係	・特別な配慮、支援を要する生徒が増加傾向にあり、年次コーディネーターの役割が重要性を増している。年次間の連携、個別支援委員会との緊密な連携を行った。	・生徒指導全般について概ね良好である。特別な配慮、支援を要する生徒への支援は引き続き重視する必要がある。
改善方策	・外部機関と連携し、生徒一人一人の心身の状態を把握し、適切なサポートを提供していく。 ・いじめの早期発見、早期解消についてもより重視していく。 ・引き続き職員と生徒間の声かけを通じて、安心できる環境づくりを図る。	
進路指導関係	・体験的な活動を通してキャリア教育の充実を図ることができた。今後は、教科指導や学校行事との関連を図る必要がある。	・生徒が自己の将来について主体的に考える機会を設ける必要があると考える。
改善方策	・教科指導や学校行事との関連を図りながら、計画的かつ体系的なキャリア教育の推進に努める。また、生徒が自己の将来について主体的に考える機会を一層充実させるため、進路ガイダンスや講話、探究的な学習等を通して自己理解を深める取組を推進する。	
健康・安全指導	・スクールカウンセラーの活用といじめアンケートの情報共有に加え、こころの健康調査の実施・分析を行い、各年次で情報を共有し、必要に応じて面談を行った。	・各種感染症対策やアレルギーへの対応など、個々の生徒情報を的確に把握し、組織的な安全対策をさらに充実させる必要がある。
改善方策	・個別支援委員会を中心に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の教育相談、生徒個々に対応した組織的な支援体制の充実を図る。 ・衛生委員会を中心にさらなる職場の衛生労働環境の改善と充実を図る。	
信頼される学校づくり	・学校説明会を活用し、本校の教育活動について理解を広めることができた。 ・教職員による写真撮影が困難になり、広報の方法に改善が必要である。	・学校行事や活動状況などの情報をタイムリーに掲載し、情報の伝達がより効果的に伝わるような方策が必要である。
改善方策	・本校の教育活動の特色や成果について積極的に発信することで、本校教育への理解の一層の促進を図る。また教育活動の様子について、ホームページ等を活用してタイムリーな情報発信に努めるとともに、内容の充実を図る。	
組織運営	・教職員数の減少に対応した組織体制の見直しを行い、業務の精選を図った。	・管理職を中心に、日常的なコミュニケーションを重視した組織運営が重要である。
改善方策	・日常業務のICT化をはじめ、教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）に向けた取組の充実を図り、効率的かつ効果的な教育環境の構築を推進する。 ・部活動の精選や部活動指導員の活用を進め、教職員の「働き方改革」を推進するとともに、生徒の健全な成長と学習環境の向上を図る。	
公表方法	学校ホームページ、学校評議員会にて公表する	